

平成 22 年 4 月 28 日現在

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19202005

研究課題名(和文)「生活場所(ビオトープ)」の美学 自然・環境・美的文化

研究課題名(英文)The Aesthetics of Biotope : Nature, Environment, Aesthetic Culture

研究代表者 西村 清和(NISHIMURA KIYOKAZU)
東京大学大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50108114

研究代表者の専門分野：美学芸術学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：自然、芸術、美的生活、環境、日本の芸術、都市、風景、旅行

1. 研究計画の概要

本研究は従来自然論、風景論、環境美学、都市の美学として研究されてきた考えかたに共通する原理的な問題点、つまりそもそもそれらがあらかじめ前提している「自然」「風景」「環境」といったコンセプトのあいまいさを認識した上で、あらたなコンセプトを構築し、それにもとづいて自然、風景、環境、都市といった「生活場所(ビオトープ)」において日々営まれるさまざまな美的実践を記述・分析することをめざす。

2. 研究の進捗状況

20人の研究分担者の課題を(1)基本的コンセプトの原理的検証、(2)風景、庭園、森林、都市問って特定の自然環境にかかわる美的ふるまいの分析、(3)歴史的時間と場所のかかわりを、その場所に付着するパトスや記憶を問い、またそこを散歩しあるいは旅する行為の意味を問うことであきらかにする、(4)現代の音楽やアートにおける美的経験と環境の関係の解明、(5)劇場や撮影現場という芸術行為が発生する場に特有の美的共同体の構造分析、(6)日本における生活場所似根ざす美的なふるまいの分析、の6点に振り分けた。毎年数回ひらかれる全体会議以外にも、海外の研究者もふくめたゲストスピーカーをほぼ毎年招請し、かれらの講演と討議をつうじてあらたな方向性や可能性を探った。一方で、研究成果を国内の学会はもとより、海外で行われる国際会議の場でも発表することで、国内外に研究成果を発信することにつとめた。すでにこの3年間で、自然概念の再検討、親密芸術と公共芸術、フンボルトの自然描写、観光美学、日本的芸術観と日常性の

美学、ピクチャレスク・ツアー、映像メディアと都市イメージの変容、サウンドアートと環境連鎖、デザインワールド、掃除ポイエシス、地方色、人工地盤、場所論、歌舞伎における美的共同体、公園の美学といったきわめて多彩なテーマについての個別研究の成果を得ている。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している
本研究があつかうのは、日常生活実践における美的ふるまいや文化の現象や領域であり、これは従来芸術を中心にした美学や芸術学からすれば周辺のなものであった。そのため記述・分析や理論化のための道具立てが十分にはなく、研究者みずからが手探りで構築するほかはなかった。また多様な領域を包摂するためにややもすればテーマが拡散するのではないかと懸念もされた。しかし個々のテーマを具体的に論じていくなかで、当初考えられていたよりもはるかにこの未開拓の領域がゆたかな土壌であることがあきらかになった。また本研究が追求しているテーマは、「感性論」や「日常生活の美学」「プラグマティズムの美学」と行った海外でのあたらしい傾向とも共鳴していることが、より明確になり、この点からも予期以上の成果をあげつつあると考える。

4. 今後の研究の推進方策

残り一年であるが、今年もあらたに、森林の美学、映画撮影現場の美的共同体、庭園、自然と人間、サウンドスケープといったテーマについて討議を行う。また外国の研究者の講演も予定している。また近年ブームになって

いる人工は依拠など、あたらしい美的文化について、実地の調査を行う予定である。年度末には研究成果報告書を作成するが、論文集を発刊することも考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計47件)

- ・ 椎原伸博「生活場所(ピオトープ)としての dalle(人工地盤)」、『美学美術史学』、査読有り、第24号、2010、13-25
- ・ 西村清和「場所の記憶と廃墟」、『美学』、査読有り、234号、2009年、1-15
- ・ 青木孝夫「見立ての詩学 古典文化の受容と変容の美学 主に瀟湘八景を例に」、『人間文化研究』、査読有り、第1号、2009、42-58
- ・ 津上英輔「感性的営為としての旅:観光美学の構築にむけて」、『美学』、査読有り、232号、2008年、2-14
- ・ 西村清和「文化概念としての自然」、『シェリング年報』、査読有り、15号、2007、32-40

[学会発表](計49件)

- ・ 安西信一「環境美学 鑑賞の正しさから 歴史的多層性へ」、第60回美学会全国大会、2009年10月10日、東京大学
- ・ 中川真「サウンドスケープと都市デザイン」、日本広告協会総会、2008年6月2日、京都宝ヶ池プリンスホテル
- ・ 渡辺裕「文学言説と都市の記憶 メディアとしての文学散歩」、美学会東部会例会、2007年11月24日、宮城県美術館
- ・ Nishimura, Kiyokazu, 'Nature' as a Cultural Concept, XVIth International Congress of Aesthetics, 2007年7月10日、METU(Ankara, Turkey)
- ・ Tsugami, Eisuke, Sense Perception for the Sake of Sense Perception: Toward Aesthetics of Tourism, XVIth International Congress of Aesthetics, 2007年7月10日、METU(Ankara, Turkey)

[図書](計21件)

- ・ 上村博(共編著)「緒論 語の定義など」、『芸術環境を育てるために』、角川学芸出版、2010年、6-19
- ・ 西村清和『イメージの修辞学』、三元社、2009年、542頁
- ・ 西村清和(共著)「怪異の物語 修羅能と「場所の掟」」、『揺らぎのなかの日本文化』、岡山大学出版会、2008年、125-142
- ・ 山田忠彰『エスト-エティカ デザイン・ワールド と 存在の美学』、ナカニシヤ出版、2008年、340頁

- ・ 中川真『サウンドアートのトポス』、昭和堂、2007年、239頁